

いま、ミドルへ

厳しい時代こそ、ミドルの総合力に期待

ミドルは大変だ。職場での責任は重く、目標も高い。仕事が増えても部下は減らされ、ゆとりがない。派遣社員との混成チームだから、気苦労が多い。不景気なのでビジネスは苦労の連続だ。疲労困憊して帰宅すれば、奥さんから、給料は頭打ち、ボーナスも減るからと小遣いの減額を宣言される。住宅ローンや教育資金がズシりと重い。同僚と一杯やりながらストレスを発散する機会もなくなった。もちろん部下を飲み連れていく余裕などはない。職場結婚の奥さんでも、若手の頃には想像もできなかったミドルの苦労はわからない。子供たちは難しい年頃だが、何を話せばよいのかわからない。若手社員とのコミュニケーションでさえ戸惑うことばかりなのだ。

ミドルには悩みが多い。仕事は若い者に負けない自信があるが、体力や気力、記憶力の低下は否めない。部下の指導育成もしなければならないが、今までの知識や経験が通用しないことも少なくない。新しいことを勉強するのが段々しんどくなるなか、苦労してやっと合格した難関の資格試験を、実務をまったく知らない若造があっさり合格したりすると、内心穏やかではない。コンピューターを自在にあやつり、最新知識をさりげなく語り、流暢な英語を話す若い部下を見て、嫉妬心をおぼえる自分が腹立たしい。真面目に努力すればそれなりに出世できた時代は終わり、将来に対する夢も描けず希望もない。いつ勤務先の倒産やリストラがあるかという心配が先に立つ。

ミドルには苦労ばかりで明るい未来はないのか。私はそんなことはないと思う。ミドルは古い既成概念にとらわれがちな年配者よりも柔軟性があり、変化に十分に対応できる。しかもこの厳しい時代を生き延びるなかで培われた粘り強さがあり、打たれ強い。

そのうえ、若手とは比べものにならない豊富な知識と実務経験がある。混沌とした状況の複雑な問題を総合的に判断し、深い洞察力で解決する能力、入り組んだ利害関係を調整して皆が納得する答を引き出す交渉力はミドルが圧倒的に優れている。存在価値を発揮するには、記憶力や体力の勝負になる定型業務はマニュアル世代の若手に任せ、ミドルならではの非定型業務の高度な応用問題で勝負すればよいのだ。

既存の体系を根底から覆す革命は昔から若者たちの領域だ。しかし、過去との継続が必要な変革では既存インフラの再整備が前提で、知識も経験もない若者たちの手には負えない。世の中が大きく変わるときこそ、広範な知識があり経験豊富、応用力があって実務に強いミドルの出番なのだ。温故知新という言葉がある。新しいことを知ることも大切だが、時代を超えて価値のある古い知識や経験も重要なのだ。

変化の時代のミドルに必要なのは広い視野と柔軟な発想、チャレンジする勇氣、そして古い世代と若い世代の特性を組み合わせる総合力を生み出すリーダーシップだ。どうか自信をもって今の厳しい時代を積極的に乗り切り、新時代を切り開いていただきたい。

PROFILE

松田 宏 (まつだ・ひろし)

松田宏コンサルティング (株)
代表取締役



1947年山形生まれ。山形大学理学部物理学卒業。運輸省(現国土交通省)航空局で航空管制官、日本電気システムエンジニア、三菱総合研究所で主任研究員、日本ヒューレット・パッカードでシニアコンサルタント/コンサルティング部門人材開発部長を歴任。2007年10月より現職。